

# 日本語学級との交流を通して

－日本語学級の友達と私たち－

○共生 ○意欲・態度 ○気付き ○自己表現 小学校5 学年

## 1 題材設定の趣旨

学区には、ブラジルから就労に来ている方が多く在住しており、本校の日本語学級にはブラジル国籍の児童13名と中国籍の児童が1人在籍している。しかし、周りの子どもたちは入級している子どもたちにかかわろうとしなかったり、無関心なままでいたりする子も多い。また、日本語学級の子どもたちも同じブラジルの子どもとばかり遊んだりすることがある。

そんな子どもたちに、日本語学級について学んだり、交流会を行うことにより、お互いの関わりが深まり、国籍の異なる子どもたち同士が、外見や文化の違いにとらわれず、相互に尊重し合い、共に学校生活を送る仲間としてどのように行動したらよいかに気付いてほしいと願い、本題材を設定した。

## 2 ねらい

- ・日本語学級に通級している友達についての理解を深めることができる。
- ・日本語学級との交流会を計画・実行することにより、異文化を持つ相手の立場に立って交流内容を考えたり楽しく交流したりすることができる。また、交流会を反省することにより、自分の在り方をふり返ることができる。
- ・日本語学級の友達の思いを知り、そのために自分たちはどうしたらよいかを考えることができる。
- ・日本語学級の児童も他学級の児童とふれあうことのよさを知り、仲良くなることができる。

## 3 題材「日本語学級の友達とわたしたち」学習の流れ（7時間扱い 小5年）

時間	学習内容	児童の活動【学習問題】人権教育視点	評価
1	○日本語学級について知る。 ○日本語学級の友達に対する自分たちの在り方をふり返り、自分たちのできることを考える。	【日本語学級にはどんな友達がいてどんな生活をしているのだろう】 ・知っていることを出し合ったり日本語学級の先生の話の聞いたりする。 【日本語学級の友達に対する自分たちの在り方はどうだろうか】 ・日本語学級の友達と仲良くしているだろうか。 ・もっと仲良くなるにはどうしたらよだろうか。 (相手理解)	・日本語学級のことを理解できたか。 ・今までの自分の在り方をふり返ることができたか。 ・仲良くするためにはどうしたらよいか考えることができたか。
1	○第1回交流会の計画を立てる。	【どんな交流会にしたらよだろうか】 ・交流会の内容を考えて話し合う。	○相手の立場に立って交流会の内容を考えることができたか。

2	○第1回交流会を行う。 (実践記録参照)	【クリスマス交流会を開こう】 ・クリスマス交流会を開き、日本語学級の友達と楽しく交流する。 (共生意識)	・相手に気遣いながら協力して行動することができたか。
1	○交流会の反省をする。 (実践記録参照)	【交流会は日本語学級の友達にとってどうだったか】 ・日本語学級の友達のよさを出し合う。 (相手の立場に立ち自らを振り返る)	・相手にどのように受け止められたか、考えることができたか。
1	○日本語学級の友達の思いを知る。	【日本語学級の友達はどんな思いをしているだろうか】 ・私たちの開いた交流会はどうだったか、インタビューをする。 ・私たちの学校に来て困ったことやいやだったことはないか、想像する。 ・日本に来て、うれしかったことや困ったことや悩みや願いはないか、インタビューをする。 (相手の気持ちを考える)	○相手の立場に立って、思いを巡らし、気持ちを考えてきたか。
1	○私たちはこれからどうしたらよいか考える。	【自分たちはこれからどうしたらよいかだろうか】 ・自分たちはこれからどうしたらよいか話し合う。 (共生意識の育成)	・相手の本当の思いを知り、自分たちはこれからどうしたらよいか考えることができたか。

#### 4 具体的な活動内容

【実践事例Ⅰ】：題材名「日本語学級の友達とクリスマス交流会をしよう」(第3時)

##### A 本時のねらい

日本語学級の友達を学級に迎え、自分たちが計画したクリスマス交流会を開くことを通し、相手に心を配りながらコミュニケーションをとり行動することができる。

##### B 指導上の留意点

- ・日本語学級の担任と十分打ち合わせをとりながら進める。
- ・自分が日本語学級の友達の立場に立って気持ちを想像させる場面での指導をていねいに扱う。
- ・学級通信で、実践の様子を紹介し、保護者へも交流のよさを広げる。

##### C 実践記録(交流会の記録)

時間	学習活動・児童の様子	指導・支援
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会係児童が進行する。</li> <li>・交流会プログラムに沿って会を進める。</li> </ul> ①始めの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を見ながら声をかけたり説明をし会の進行の手助けをする。</li> </ul>

## ②係長あいさつ

「日本語学級のみなさん、今日は5年1組とのクリスマス交流会に来てくれてありがとうございます。ぼくたちは、みなさんと交流会ができてとてもうれしいです。ぼくは、4年までは、日本語学級の人とは話が通じないと思って声をかけませんでした。でも5年になってJ君がブラジルから転入してきてからいっしょに遊ぶようになりました。日本語学級の教室に入って卓球をしたり輪投げをしたりして楽しかったです。今日はクリスマス交流会を計画しました。楽しんでいって下さい。」

## ③歌「あわてんぼうのサンタクロース」

- ・日本語学級の人たちが楽器を持ってきて5年1組の歌に合わせて伴奏をした。

## ④自己紹介

日本語学級の友達が一人ずつ自己紹介をした。

## ⑤クラス発表

5年1組は「飛行船」の合唱とアルトリコーダーで「よろこびの歌」を演奏し、日本語学級の友達は「ブラジル国歌」と「ゆかいなまきば」を歌った。「ゆかいなまきば」は音楽の教科書にのっている曲だが、原曲はポルトガル語であり、日本語学級の友達がポルトガル語で、5年1組は日本語でと互いの母語で歌った。

## ⑥ゲーム

- ・いすとり      ・フルーツバスケット
- ・じゃんけん    ・ビンゴ

## ⑦質問コーナー

5年1組の子が日本語学級の友達に「日本に来て一番悲しかったことは何ですか。」と質問をすると、M児が「前いた学校で、ブラジル人だからけんかが強いだろうとか、ブラジル人だからバカと言われていつもいじめられた。」と答えた。また、R児は、「いつもろうかで6年生の女子にいじめられる。」と答えた。



- ・オルガン伴奏をしたり、いっしょに歌う。
- ・いっしょにゲームを楽しむ。日本語ができない子がゲームができるように助ける。

「日本に来て一番うれしかったことは何ですか。」と質問すると、M児は「この5年1組とのクリスマス会。」と答えた。

⑧プレゼント

一人ずつ手作りのプレゼントを用意し手渡すと、日本語学級の友達はとても喜んだ。

⑨日本語学級代表のあいさつ

「今日は交流会をやってくれてありがとうございます。交流会をやってくれたのは5年1組が初めてです。ぼくとA君とJ君は6年生だから卒業してしまうけど、下の子はまだいるから、ぼくたちがいなくなっても後のブラジルの子たちをよろしくお願いします。また交流会をやって下さい。」

⑩先生の話

・とてもいい交流会が持てたことを喜び、これからもなかよくしていこうと話す。

D 交流会の感想より

始めは盛り上げられるか心配でした。私は一番楽しかったのはいすとりゲームです。なぜかという、日本語学級の人がとても楽しんでいて気楽にできたからです。やっている内に友達になれたような気がしました。質問コーナーの時に「一番楽しかったことはなんですか。」と聞くと、M君が「5の1とのクリスマス会をやったこと。」と言ってくれたからうれしかったです。これからも日本語学級との交流会をいっぱいやっていきたいです。

ブラジル国歌を歌ってくれましたが、日本の日の丸とぜんぜん感じが違うなあと思いました。質問コーナーの時、一番うれしかったことは5の1のクリスマス会と言ってくれたけど、反対につらかったことは何ですかの質問に、M君は「ブラジル人ならけんかが強いだろうと言われていつもいじめられた。」と言いました。Rちゃんも「6年生の女子に通りがかりにいやなことを言われる。」と言っていて、2人ともかたことの日本語だったけど、とても気持ちが伝わってきて泣きそうになりました。これからも交流をしたいです。

私は司会役だったけど、うまくできないところもあったので70点ぐらいです。Mちゃんが他の人に比べて笑っていなかったので「楽しい？」と聞くと、首を横にふりました。私は「えっ。」と思いましたが「サンタさんが来てくれるからね。」と言うと少しほほえんでくれました。Mちゃんは、まだ日本に来たばかりだから、何もわからなくて楽しくなかったんだと思います。でも心だけは届いたと思います。Mちゃんに楽しんでもらえるように、またこんな会が開けたらいいなと思います。

[実践事例Ⅱ：クリスマス交流会を反省し、日本語学級の友達の気持ちを考えよう]

A 本時のねらい (第5時)

私たちが開いたクリスマス交流会は、日本語学級の友達にとってどうだったかをふり返り、M児とR児の発言をもとに、日本語学級の友達の困ったこと、いやだったこと、悲しかったことはないか考えることができる。

B 指導上の留意点

日本語学級の友達の気持ちを考える時には、もし、自分がその人の立場だったらどうするか考えさせ、自分は今まで無関心でいたことに気付かせるようにする。

C 授業記録

時間	学習活動・児童の様子	指導・支援
はじめ	<p>【日本語学級とのクリスマス交流会の反省をしよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしかった人もいるけど、日本語がわからない人にはうれしくなかったかもしれない。</li> <li>・自己紹介を急にさせられてしまって、とまどったかもしれない。</li> <li>・イス取りゲームは楽しそうだった。</li> <li>・Eちゃんは一人だけ笑わなくてつまらなそうだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学級の友達にとってどうだったろうか反省させる。</li> </ul>
なか	<p>【日本語学級の友達の困ったこと、いやだったこと、悲しかったことを考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M君が言われた「ブラジル人だからけんかが強いだろう」とか、「ばか」というのは偏見だ。ひどい。自分だったら学校に来たくなくなる。</li> <li>・Rさんをいじめる女子はRさんがブラジル人だからってばかにしていると思う。</li> <li>・私たちの学校でもなかまはずしやいじめられたりしたと思う。</li> <li>・言葉が通じなくて、勉強もわからず、わからないことだらけで友達もできなかったと思う。</li> <li>・文化が違うからトイレや何をするにも困ったと思う。</li> </ul> <p>【日本語学級の友達のよかったこと、うれしかったことを考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちがやった交流会はうれしかったと思う。</li> <li>・日本語ができるようになったこと。</li> <li>・原級の人になかよくしてくれたり、友達ができたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会の中でM児とR児が言った発言を取り上げる。</li> <li>・なぜそう考えるのか理由も言わせる。</li> <li>・自分が日本語学級の友達の立場だったらどうかという視点を持たせる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会で日本語学級の友達がうれしそうだった時はどんな時だったか思い起こさせる。</li> </ul>

/ お わ り	<p>【私たちに、もっとこうしてほしいということはどうなることだろうか】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめをなくしてほしい。</li> <li>・外国人だからって差別しないで。</li> <li>・遊びに誘ってほしい。</li> <li>・交流を続けてほしい。</li> </ul> <p>【日本語学級の友達の本当の気持ちを知るには、どうしたらいいだろうか】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学級の先生に聞きに行く。</li> <li>・インタビューに行って、一人一人の気持ちを知りたい。</li> </ul> <p>【インタビューの計画を立てよう】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ができない子には、できる子に通訳してもらえるようにする。</li> </ul>
------------------	---	--

## 5 題材実践後の児童の変容

### (1)日本語学級の友達とのかかわり

- ①交流会の後、休み時間や放課後など日本語学級の教室へ遊びに行ったり、いっしょに遊ぶようになった。5年1組の教室にも日本語学級の友達が入ってきて遊ぶようになった。中には家まで遊びに行くようになった子もいた。
- ②日本語学級のA君の様子を心配し、休み時間になると様子を見に行く子もいた。

### (2)地域の外国人の方へのかかわり方

- ①地域に住む外国人の方に出会うと、自分からあいさつをするようになった。
- ②日記にも外国人とふれあった様子がしばしば出てくるようになった。

〈日記より〉

学校の帰りに、自動販売機の前に一人の外国人がいた。何だか困っているようだったので、「どうしましたか。」と聞くと、身振り手振りでどうやって使うのかわからないと答えてくれた。お金を入れてボタンを押すことを、身振り手振りで教えてくれた。「ありがとう。」と片言の日本語で言ってくれて、すごくうれしかった。これからも困っている人がいたら声をかけたい。

### (3)姉妹学級との交流会へと発展

- ①日本語学級との交流会の後、姉妹学級の3年1組には、日本語学級のE児がいるので「原級ともクリスマス交流会をすればみんなでなかよくなれる」と提案する子がおり、計画を立て交流会をもった。

## 6 成果と課題

### 【成果】

- ①学校でともに生活していても、日本語学級の友達には無関心だった子どもたちが、交流会をもったことにより、今までかかわりのなかった子と話したり、いっしょに遊んだりすることができ、ふれあいを深めることができた。直接交流により、相手のよさを肌で感じ合い、交流会は大変有効であった。
- ②日本語学級の子どもたちも初めての自分たちのために開いてくれた交流会をととても喜んでくれた。その後、他の学級とも総合の授業に参加したり、全校音楽で歌を発表したりと、日本語学級の児童と全校の児童とが互いに親密感を持つようになった。日常生活でもいっしょに話したり、家に帰っても遊び合ったりするようになった。
- ③交流会で出されたM君とRさんの「いじめられた」という発言をもとに、相手の気持ちを想像したり、実際にインタビューをしたりすることを通し、相手にとっての自分の在り方を振り返り、これからの在り方を考え、実践への意欲づけができた。
- ④人権教育の視点だけでなく、異文化理解を含めた国際理解教育としての価値も持つ題材であった。
- ⑤日本語学級の友達のためにした学習が、子どもたちの喜びと自信になり、姉妹学級との交流会や、地域の外国人の方との交流にも関心が向き、次の活動へと自然に発展していった。

### 【課題】

- ①転入転出のため、状況が変わってしまうことがあり、見通しを持って単元を展開していくことが難しい。
- ②日常的な関わりの方の位置づけを考える必要がある。
- ③日本語学級の子どもたちが、自分らしさを発揮できる場をどのように設定するか。
- ④学校内に文化の違う友達がいることにより、豊かな学習が展開できるという認識に教師自身が立つことが大事である。

